

3 道徳教育グループ

(1) 研究課題

「考える道徳」「議論する道徳」科の工夫・改善
～主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法の充実を通して～

(2) 研究課題設定の理由

平成30年度は小学校、翌年の令和元年度からは中学校で道徳の時間は「特別の教科 道徳」(以下「道徳科」)として位置づけられた。教科化になったことで、質的な向上がより一層求められている。

学習指導要領の道徳科の目標は、以下のようになっている。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

この目標を達成するためには、既存の知識や技能を使って、いろいろな課題に向き合い、他者と話し合いながら思考力・判断力・表現力を発揮していくことが求められる。

「主体的・対話的で深い学び」を目指すことが、研究主題である「考える道徳」「議論する道徳」となると考える。そのためには、学習指導要領の内容を理解すると同時に指導方法を充実・改善していく必要があると考え、主題を設定した。

(3) 研究内容

研究主題実現のため以下の2点を重点として取り組んでいく。

- ① 「考える道徳」「議論する道徳」を実現するための望ましい指導方法
- ② 児童生徒を励ます評価のあり方

①「考える道徳」「議論する道徳」を実現するための望ましい指導方法

「指導方法」というと、「決まりごと」となり、「このようにすべき」「このようにしてはならない」などと、いわゆるタブーとして作用するなど、授業を硬直化させてきた一面もあった。しかし、指導方法を抜きにしては、充実した授業を行えない。

目標を達成するための指導方法を最優先し、未来志向で指導方法を考えていきたい。『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成29年7月)』には、「道徳科に生かす指導方法の工夫」として、以下の7つに整理されている。

- ア 教材を提示する工夫
- イ 発問の工夫
- ウ 話合いの工夫
- エ 書く活動の工夫
- オ 動作化，役割演技などの表現活動の工夫
- カ 板書を生かす工夫
- キ 説話の工夫

道徳グループでは，【ア 教材を提示する工夫】と【イ 発問の工夫】に重点をおき，研究を進めていく。

②児童生徒を励ます評価のあり方

ア，道徳科の評価とは

道徳科の評価とは，児童生徒の側から見れば，自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていくものであり，教師の側から見れば，教師が目標や計画，指導方法の改善・充実に取り組むための資料である。

道徳科の評価は，学習指導要領に次のように定められている。

児童生徒の学習状況や道徳性に関わる成長の様子を継続的に把握し，指導に生かす



- 数値による評価ではなく，記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく，大きくくりなまとまりを踏まえた評価をすること
- 児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止め，認め励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず，入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

イ，児童生徒が意欲を高める評価とは

道徳の評価は「道徳的諸価値の理解」「自己を見つめる」「多面的・多角的な思考」「生き方についての考えを深める」という4つの観点を通じて，どのように変容したか個人内評価を行うことである。児童生徒にとって，道徳の授業を次もがんばろうと動機づけを行えるような励ます記述が通知表では望ましいと考えられる。

(4) 実践から

① 【港北中学校研究授業より（令和元年7月22日 5校時 第3学年 渡邊朋人教諭）】

ア、授業のねらい

自分の夢に向かう主人公の姿を通して、家族を敬愛し、家族の一員としての自覚を持ち、よりよい家庭生活を築こうとする心情を育てる。

イ、授業のポイントと指導観

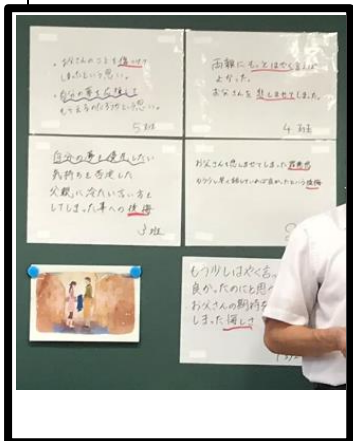
- ・主人公と自分を重ね、共感的に考えることができるように発問を工夫する。

→物語の「起承転結」の「転」の場面に中心発問を設定し、生徒をゆさぶる。また、「道徳的な心情」を問う発問

ウ、本時の展開

振り返りで生徒の記述と比較し、生徒の変容・心の成長をとらえる。

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上のポイント
導入(10分)	「家族の支え」について振り返る。 教材を、身近な内容として引きつける発問。	○「家族の支えを感じていることにはどんなことがあるか。」 ・食事を作ってもらう ・病気したときの看病 ・塾に行かせてくれている ・家族が相談に乗ってくれた	ここでは、生徒たちが家族からの支えを <u>精神的な面より物理的な面で考えている</u> ことを抑える
展開(30分)	「背筋をのばして」をP52・14行目まで範読する。(約10分)	「主人公(千里)と父親の両方の視点で教材を読もう」【補助発問】	主人公(千里)と父親の両方の視点から、「家族の思い」について考えさせたい。
	個人で考えた後、グループで考え、ホワイトボードに記入し発表する。	◎「進路希望用紙をたたみながらふくれていった千里のやり場のない思いとは、どのような思いなのだろう。」【中心発問】 ・父にも認めてほしかった ・父の悲しい気持ちもわかるが自分だから。複雑な思い。 ・もう少しまく伝えられ 「この後、どうなったのだから親はどうすべきだろう？」 ○お父さんから、「精いっぱい頑張ってください。」と言われた千里は父や母にどのような思いを持って家を離れたのだろう。 ・本当は店を継いでほしい気持ちがあるのに娘の夢を応援してくれたことに応えたい。 ・父の言葉を胸に頑張りたい。	それまでの思いを重ねて考えさせる。 「やり場のない思い」も自分に向き合うので 中心発問 話の流れが発展し、流れが変わる場面に中心発問を設定。主人公の葛藤について考えさせて生徒を揺さぶり、様々な考えを引き出す。



終末(10分)	「家族の支え」についてもう一度考える。	○家族はどんな思いでいるのだろう。 ○家族に対して、自分ができるとは何か考えよう。 ・自分たちのことを大事に考えてくれている ・家族の支えがあるから頑張れる自分がいる。 ・家族に	導入と比較検討する。 <u>家族の支えを、精神的な面での支えとして見つめ直させたい。</u> さらに、「自分ができるとは何か」をさせること
---------	---------------------	---	--

導入での発言・考えと比較する。物質的な支えだけでなく精神的な支えとして見つめ直させたい。
 →生徒の心の変容や成長をみとり、評価に生かす。

エ、実践から

本教材は、クリーニング店を継いでほしいという父親の思いを知り悩む主人公が、最後は希望のデザイナーになるために専門学校に進学する物語である。義務教育が終わる3年生だからこそ、自分の進路選択と家族の思いについて考えることができる教材である。

今年度は、中学校にとって道徳の教科化初年度となる。教科書の読み物教材を取り扱う上で、本時では特に「発問の工夫」にフォーカスした。具体的には、ねらいに迫るために、①どのような内容の発問にするか、②どの場面に中心発問を設定するか、の2点である。

①については、「道徳的な判断力」「道徳的な心情」「道徳的実践意欲と態度」を問う発問が考えられる。ねらいを達成するために「道徳的な心情」を問う発問を設定した。

②については、中心発問を物語の「起承転結」の「転」の場面に設定した。主人公が悩み、心に大きな変化が生じる場面であり、生徒を揺さぶり多面的・多角的な思考を促すためである。

また、本時での生徒の変容を捉えるために、導入と終末で生徒の変化が読み取れる工夫をした。


本教材は進路選択の場面ということもあり、生徒は比較的自分のこととして捉えやすかったようである。教材によっては導入や教材の提示を工夫し、生徒を引きつける授業構成が必要となる。

② 【高砂小学校公開研究授業より(令和元年12月3日 5校時 第3学年 櫻庭彪海教諭)】

ア、授業のポイントと指導観

- ・本時の学習内容について興味関心を抱くことができる導入の工夫
- ・悩んでいる人に教えるという立場で謝ることのよさについて話し合い、正直に謝ることのよさについての理解を深める。

イ、本時の展開

導入	学習活動 ・児童の予測される反応 ○挿絵と動作を見ながら、場面をつかむ。 ・遊んでいて、金賞の絵を汚してしまった話 ○本時の課題を提示する。 かんがえよう 正直		・留意点 ◇評価 ◎挿絵を見せながら実演する。 ・雑巾を投げて、黒板の挿絵に当たった後、その挿絵に金賞のシールを貼る。
----	--	--	---

挿絵だけを提示し、場面の出来事を想像したり、実物を提示したりすることで本時の学習内容に対する興味関心を抱かせる。

展
開

○教材の範読を聞く。

○三つの場面の出来事を簡単に整理する。

①掃除の時間 ②家に帰ってから ③次の図工の時間

①雑巾で遊んでいて、絵を汚してしまった。

②正直に謝るべきか悩んだ。

③正直に謝って許してもらった。

○家に帰ってから、どのようなことを

家に帰ってからぼくはどのようなことを考えていたのか。

- ・正直に謝ればよかったな。
- ・もし、ぼくだってばれたらどうしよう。
- ・明日、ちゃんと謝ろう。
- ・怒られるかもしれないから言わない

○どうして、ぼくは何度も謝ったのか

「ぼく」があきらさんに自分のしたことを正直に打ち明けて何度も頭を下げたのはどうしてでしょう。

- ・一回謝るだけではすまないと感じたから。
- ・手が震えているところを見て、もっとしっかり謝らなくてはいけないと思ったから。
- ・一生懸命作った絵に大変なことをしてしまったと感じたから
- ・あきらさんは悲しい気持ちだと思ったから。

○正直に謝れない人はどうして謝れないのか考える。

正直に謝ることができない人はどうして謝れないんだろう。

- ・許してもらえないかもしれないと思っているから
- ・正直に言って嫌われたらどうしようと思っているから
- ・正直に言う勇気が出ないから

子どもたちは、正直に謝ることがよいことだということは理解している。しかし、「正直に謝る」という行動の裏には、様々な葛藤があることを素直な言葉で引き出す。

挿絵を並べながら時系列と出来事の確認をすることで全員が共通の理解で授業に参加できる。

一つの行動の根拠には、多数の道徳的価値が関係していることに気づかせる


を考えさせ、正直に謝ることの難しさと必要について考えさせる。

・許してくれなかったかもしれない。という状況を子どもたちに簡単に伝える。

・正直に謝ることができない人の存在を伝え、それがなぜなのか問う。

○正直に謝ることは大切なことだという認識を全体で共有する。



<p>終末</p>	<p>○正直に謝ることのよさを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>正直に謝るか悩んでいる人がいます。この人に正直に謝ることのよさを教えてあげてください。</p> </div> <p>①各班で考えの交流 ②画用紙に考えを書く。 ③画用紙を前に貼り、気になる考えを伝える。 ・正直謝られると自分も相手も気持ちよくなる。 ・正直に謝ると後悔しないですむよ。</p> <p>○学級写真を見て、悩んでいる人は自分にとっての相手を知ろう。 ○ふりかえり（今日学んだことをどんな場面で活かしたいか書く。）</p>	 <p>・心の成長</p> <p>○テレビに学級写真を映す。</p>
-----------	---	---

第三者に対して、道徳的価値のよさを伝えるという立ち位置をとらせることで、道徳的価値や行動について客観的に考えることができる。

ウ、実践から

子どもたちは一時間の授業の中で、「教材の内容理解」「道徳的価値の理解」「他者理解」「人間理解」「自己の生き方」など多くの学習活動に取り組むことになる。その際、重要になるのは「教材との出会い方」である。「今日学習することは他人事ではない」「この後、どうなったのだろう」という意識を子どもたちに持たせることが重要になってくる。このような意識を持たせることが、子どもたちの素直な考えを引き出し、自分の生き方について考えさせることにつながる。

そのためには、他教科や他領域、そして日常の学級経営を通じて、「互いに考えを出し、話し合える関係」を構築することが重要である。

(5)本年度の成果と課題

①成果

「考える道徳」「議論する道徳」の実現のために、道徳グループでは「教材を提示する工夫」と「発問の工夫」に重点を置いて研究を進めた。

「教材を提示する工夫」では挿絵やICTを使い、児童・生徒の関心を高める方法を研修することができた。特に高学年になるにつれて教材文も長くなるため、黒板に挿絵を掲示したり教材を分割して提示したりするなどの工夫が、児童・生徒が教材文の内容や場面を把握する上で効果的である。

「発問の工夫」については、発問内容を「道徳的な判断力」「道徳的な心情」「道徳的実践意欲と態度」と大きく捉え、ねらいに迫るための発問の設定について研修を深めることができた。

②課題

「教材を提示する工夫」については、様々な教材に対応するより多くの提示の方法について交流を深める必要がある。評価については、小学校が2年目、中学校は1年目となる。児童生徒を励ます評価のあり方について、児童生徒の学習の記録を蓄積することが重要である。